



糸で繋がるシニアパワー!! ~グリーンライフシニアわかやま~

和歌山市東部、紀伊風土記の丘に近く、市街地から少し離れた自然豊かな場所にある交流施設「みんなの家・西和佐」。築 80 年の古民家を利用したその場所には、老若男女問わず、地域の人々が集い、昔ながらの方法で綿から糸を紡ぐ機織りの音が響いています。
今回は、この場所で「紀の国こっとな手織り広場」活動する「グリーンライフシニアわかやま」代表山田俊治さんにお話を伺いました。



わたぼうし紀伊農園での作業の様子

当初集まった7名には、企画立案が得意な人、人脈が広い人、書

「楽しい」が原動力
今後は、織り上げた布を利用した製品販売事業や、展示などできればと検討中だとか。「私たちの活動は一人よりも、様々な人が集まるからこそやり

シニアならではの経験を活かす
「みんなの家・西和佐」を間借りする事ができました。それぞれのメンバーが、今まで培ってきた人脈と専門分野を最大限に活用し、場所・人・資金といった様々な課題を解決する

地域でのシニアの力を発揮
兼業農家でもある山田さんは、ボランティアとして畑で綿を栽培し、その綿を利用した糸紡ぎ体験をしてみては、と提案。そこで、一反半ほどの広さの「わたぼうし紀伊農園」で、綿の栽培をみんなで行い、収穫した和綿から糸作りを行うことに。

現在ではメンバーは26名に増え、小中学生や高齢者、福祉施設障がい者の方々にも糸紡ぎから機織りまでの様々な体験を伝えるボランティアとして活躍しています。先日は支援学校の先生が、生徒が綿作りから機織り体験をできないかと、訪問されたとか。日に日に輪が広がっています。

活動のきっかけ
山田さんは会社を定年退職後、地域の様々な活動に興味があり、時にボランティアとして地域づくり活動に関わってきました。そんななか、農園芸を通して地域交流を図る福祉活動を知り、地域でも同じような取り組みができないかと考えました。その過程で、奈良で実家が「大和餅の機織り業をされていた旧友と相談し、新旧の友人達と「平成24年度和歌山県高齢者を地域で支え合う体制づくり事業」に応募し、採択された事からスタートされたそうです。



小学生と機織り体験



みんなで糸つむぎ

内木綿」の復活に向けた活動されている秋原星子さんを講師に迎えて、「紀の国こっとな手織り広場・サポーター養成講座」を企画したところ、定員の2倍以上の応募が届け、好評だったことから講座を継続して開催したそうです。
ではの経験を最大限に活かし、人同士がつながる活動を展開されているその姿に、若者ではかなわないシニアパワーを感じました。(植田祐起代)

グリーンライフシニアわかやま
TEL 073-474-2248 (社会福祉コミュニティ総合事務所内)
Facebook <https://www.facebook.com/GLSwakayama>
今後の主なイベント
・8月 和歌山市上野の自治会館で子供と家族・高齢者向け手紡ぎと織り体験会
・9月 紀美野町中央公民館で高齢者向け手紡ぎと織り体験会
・10月 モミガラ焼き芋とサツマイモ収穫祭 ほかにも様々なイベントを計画中！

みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- ラフターヨガの体験会
笑いを取り入れたヨガ。ストレッチ解消、有酸素運動、健康にもつながります。気軽に体験しませんか。
日時 8月5日(火) 10:00~12:00
14:00~16:00
場所 和歌山市中央コミュニティセンター3階
参加費 大人500円、子どもは無料
主催・問い合わせ ラフターヨガ・わかやま (090-2359-7921・藤島さん、090-8753-2949・北原さん)
- 自然博物館マツノ学芸員とみる風土記の昆虫
紀伊風土記の丘にはどんな昆虫がいるのでしょうか。
日程 8月7日(金) 10:00~12:00
場所 和歌山市立風土記の丘
参加費 無料(別途資料代・入館料が必要) 定員 15名(先着順)
対象 小学生
問い合わせ・申込み 紀伊風土記の丘 (073-471-6123)
- 夕暮れ Jazz Cafe 2015
地元ミュージシャンによるジャズの演奏を聴きながら、ドリンク・フードを楽しめるイベントです。
日程 8月8日(土) 17:00~
場所 和歌山市民会館緑地広場
問い合わせ 和歌山市民会館 (073-432-1212)
- ※このコーナーについて
NPO法人市民の力わかやまが管理・運営している「みんなでつくる情報板・わかやまイベントボード」のなかから、概ね向こう2週間以内開催されるイベントを毎回4つ、ピックアップしてご紹介しています。主催団体自らがイベントを登録し発信することもできます。詳しくはイベントボードウェブサイト。

このほかの情報もたくさん掲載！
「わかやまイベントボード」URL
PC版 <http://eventboard.shiminjuku.jp/>
携帯電話版 <http://eventboard.shiminjuku.jp/m/>

NPO 紙上講座 (14) NPO を取り巻く環境⑦

NPO はよく「テーマ型組織」といわれます。地域でまだ解決されていない課題に向き合い、その解決に向けた取り組みをおこなうのが一般的。かたや、自治会・町内会や消防団、婦人会や老人会、地域によっては水利組合など、その地域のなかで同じ属性を持つ方などが中心となって組織されることから、一般的に「地縁組織」と言われています。
NPO のなかには地縁組織をベースとした団体、あるいは複数の地縁組織が連携した団体など、様々な形態がみられますので、NPO を十把一絡げに語ることはできませんが、今後想定される人口減少や少子高齢化などを考えると、地域によっては、また地域の課題によっては、NPO と地縁組織が手を結び、ともに地域をよくする動きを見せる必要が出てくる可能性が十分考えられます。

2010年から30年間に人口は約9万人、率にして24%減少するとみられています。人口減少を食い止める施策も進められていますが、この予測通りに推移しますと、単純計算ですが2040年には2010年比で50~60億円程度の市民税収入が減少する恐れがあります。人口が減少することで経済活動も鈍化すればそれ以外の税収も減少する可能性もありますから、大幅な税制の見直しがない限り、国だけでなく地方の行政財政もますます厳しくなりそうです。
逆に、様々な福祉に必要な「扶助費」は一般会計・介護保険会計合わせてここ10年で約1.6倍の800億円程度にふくれあがっており、高齢化の進展でさらに膨らむことが懸念されます。介護保険制度や医療保険制度の見直しでこの伸びを抑制する動きにはなっていますが、少なくとも財政の硬直化はいつそう進みそうです。

国立社会保障・人口問題研究所が2010年の国勢調査の結果をもとにおこなった人口推計では、今後和歌山県の人口は1年に1万人程度のペースで減少すると予測されています。和歌山市に限ってても、

民や企業が持つ金融資産を地域に対してどう有効活用させるかの検討が進められています。
相続税をはじめ、若年層への資産の移動に対する税制の見直しも進められていますし、地域の様々な公益的な活動への遺産贈与に対する優遇税制など、個人資産を地域づくりに活かす取り組みの模索が進められています。
企業から地域への資金還流の動きを高める動き、いわゆる「市民コミュニティ財団」のような市民立の財団を活用し、公益活動への助成を進める動き、様々なアイデアが出てきています。
これに限らず、地縁組織やNPOへの市民の直接・間接的な関わりが強まらなると、地元をよくする力「地元力」が高まりません。一人ひとりが地域づくりに対してなにができるかを真剣に考える時期にさしかかっているようです。
もちろん地縁組織・NPOの側も事業や会計の透明性を高めて、地域の信頼を得るための実績をあげることが必要です。
いま盛んにいわれている「地方創生」の各施策をはじめ、これからの地域づくりはまさに総力戦といえるのかもしれない。